NIE実践報告

1．タイトル：点字を通して考える～ユニバーサルデザイン新聞をつくろう～

2．学校名

長岡市立表町小学校

3．実践者名（代表者名）

山本　和代

4．学年

第4学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　25人

6．単元（本時の学習課題）名

みんなの商品を一枚の新聞にまとめよう

7．目標(狙い)

個々の考えたユニバーサルデザインの新聞を紹介し合い、観点を決めて分類し見出しを付ける

8．評価の視点

それぞれのアイディアの特徴から共通項を探し、それを端的な言葉で表せたか

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

点字を通して考える（教科書教材：学校図書）9時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①題名や話題提示から考えたことを発表する。1時間
②点字の歴史について読み取り，様々な点字のよい点と悪い点をまとめる。2時間
③日本の点字はどのようにできたのか読み取り，点字を使っている人々の願いについて考える。1時間
④バリアフリーについての筆者の考えをふまえ「本当のやさしさ」について自分の考えをまとめる。2時間
⑤ユニバーサルデザインについて調べ，紹介する新聞を作る。3時間

・筆者の述べる「本当のやさしさ」とはどういうことなのかについて、点字の事例やユニバーサルデザインの事例を通して考える。
・ユニバーサルデザインについて調べたり、そのよさについて効果的に伝える方法を考えたりする活動を展開し、筆者の考えを身近な問題と乖離させることなく、実感を伴って受けとめられるようにする。
・互いの感じ方を比較しあうことで、さらに考えを深めさせる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・単に使いやすいということがユニバーサルデザインなのではなく、障害について正しい理解が必要であること、自分とは違う立場の人のことを考えられることが大切であるということに気付くことができた。

12．成果と課題

・個々の記事を持ち寄って、大新聞を構成するという活動は一人一人の考えが形に残るため、達成感を味わわせることができた。しかし、記事の分類活動ではどのような視点で分類したらよいのか迷う場面もあり、教師が子どもの話し合い活動にどうかかわるべきか前もってプランを立てていく必要があった。